

平成29年度
小学校②

全国学力・学習状況調査
授業展開例【ひだかプラン】

国語B ③ 物語を読んで、感想を伝え合う（あまきみこ「きつねの写真」） 設問三

○ 条件として書きましよ。なると考えたわけを話して。あなた田中さん

○ 言葉や文を取り上げて書くこと。どうして松ぞう

○ 六十字以上、百字以内にまとめて書くこと。

【話し合いの様子】

あまきみこ「きつねの写真」を、心に残ったところは、

「話し合いの様子」

あまきみこ「きつねの写真」

【話し合いの様子】

あまきみこ「きつねの写真」

1 出題の趣旨

物語を読んで考えたことを発表し合い、叙述を基に自分の考えをまとめることができるかどうかをみる。

物語を読み、感想を伝え合う場面を設定しています。自分の考えが、どの叙述に基づいているか、自分の経験などとどう結び付いているのかを明らかにしながら話し合い、一人一人の感じ方に違いがあることに気付くことができるようにすることを求めています。

2 学習指導要領に示されている言語活動例との関連

〔第3学年及び第4学年〕 C 読むこと
ア 物語や詩を読み、感想を述べ合うこと。

3 学習指導要領における領域・内容

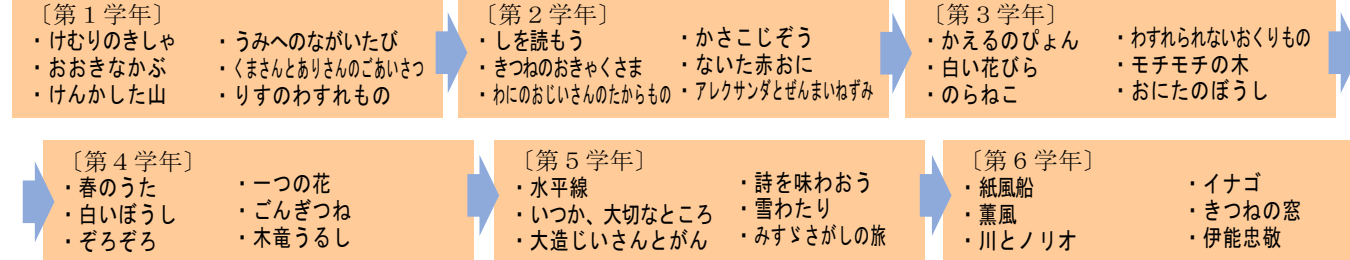
〔第5学年及び第6学年〕 C 読むこと
エ 登場人物の相互関係や心情、場面についての描写をとらえ、優れた叙述について自分の考えをまとめること。

調査問題は、調査対象学年の**下学年の学習内容**からも出題されています。

出題の趣旨を踏まえ、**全ての学年で、教科書の教材分析を行い、授業改善に取り組んでみましょう。**



【出題と関連する「読むこと」の教科書教材（教育出版）】



4 授業展開例：第4学年 物語を読んで読書会をする展開例

- 1 単元名 「ごんぎつね」を読んで読書会をしよう
- 2 単元の目標
読書会をすることを通して、場面の移り変わりに注意しながら、登場人物の性格や気持ちの変化、情景などについて、叙述を基に想像して読んだり、文章を読んで考えたことを話し合い、互いの考えの共通点と相違点を考え、一人一人の感じ方の違いに気付いたりすることができる。
- 3 単元の評価規準
・新美南吉作品や関連図書を読み、感じたことや考えたことを話し合おうとしている。

【国語への関心・意欲・態度】

・登場人物の性格や気持ちの変化などを、叙述を基に想像して読み、一人一人の感じ方の違いがあることに気付いている。

【読む能力】

・言葉には、考えたことや思ったことを表す働きがあることに付き、伝えている。

【言語についての知識・理解・技能】

4 教材 「ごんぎつね」 新美南吉

5 単元の指導計画

次	時	主な学習活動	指導上の留意点
一	1・2	1・2 「ごんぎつね」を読み、読書会の進め方を知る。	○ モデルを準備し、読書会の進め方を知らせる。 ○ 初発の感想を基に、読書会の話題を決める。
学習課題：「ごんぎつね」を読んで読書会をしよう。			
二	3 5 10	3 新美南吉作品や「きつね」が出てくる本を知る。（並行読書） 4～6 教科書教材「ごんぎつね」を指導事項に即して読む。	○ ブックリストやコーナーをつくって読書環境を整え、並行読書ができるようにする。 ○ 自分の考えや、感想を書きこむことや、全文を読み通すことができるワークシート（「ごんワーク」）や読んだことをまとめることができるワークシート（「ナビワーク」）を準備する。 ○ ①「物語の設定」、②「登場人物」、③「表現」、④「場面の移り変わり」の視点に即して読むようにする。 ○ 読書会の話題に沿って、感じたことや考えたことを話し合うようにする。 ○ 「個人→グループ→全体」という思考過程を通るようにする。
【物語全体を俯瞰し、視点に即して自分の読みをまとめるワークシート例】			
		7～10 話題に沿って、読書会をする。 ①ごんは、なぜ、いたずらをするのだろうか。 ②ごんは、なぜ、変わったのだろうか。 ③ごんは、なぜ、つぐないをつづけるのだろうか。 ④なぜ、最後の場面が心に残るのだろうか。	
三	1 1	11 読書会を振り返り、初発の感想と比べながら、自分の読みの変化をまとめる。	○ 読書会を経験し、初めの感想と比べ、どのように変わったか、変わらなかったか、どのような読む能力が付いたかを振り返るようにする。

ポイント1 指導計画に言語活動と5つの言語意識を位置付ける

・学習指導要領の言語活動例に示されたスピーチ、ポスターセッション、討論など多様な言語活動を取り入れます。

・「解説文を書く」、「おすすめの本を紹介する」などの言語活動を5つの言語意識から具現化します。

- 【本展開例の5つの言語意識】
- ①目的意識：感じ方の違いを捉えるために
 - ②相手意識：学級の友達に対して
 - ③場面意識：読書会で自分の読みを伝える学習活動において
 - ④方法意識：話題に沿って根拠を明確にして伝える
 - ⑤評価意識：一人一人の感じ方に違いがあることに気付けたか。

ポイント2 目的や条件に応じて、理由や根拠を明確にして、自分の考えをもつ活動を位置付ける

・『□□（キーワード）』を使って、「○字以内」など、字数の制限や条件を意識させながら様々な様式や形式で書くことができるよう、書く場面を工夫します。

・複数の叙述を基にしながら、登場人物の性格や気持ちの変化を捉えることができるよう、全文シートを活用して、場面を関連付けて読んだり、ワークシートを工夫し、物語全体を俯瞰してまとめたりする活動を位置付けます。

ポイント3 自分の読みの力の高まりを振り返る活動を位置付ける

・読書会後に、考えの共通点や相違点、考えが深まった点を探ることを促す発問をするなど、どんな読みの力がついていたか自覚できるようにします。

【発問例】

友達の意見を聞いて、納得できたところや納得できなかったところ、深まったことなどを、整理してみましょう。